

平成21年度第2回（第10回） 真砂地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成21年7月1日（水） 16時00分～18時10分

2 場 所 真砂コミュニティセンター 第2講習室

3 出席者

- (1) 委員 欠席：なし
- (2) 事務局 古舘主幹、加茂主査、伊藤主査補、山崎主査補
- (3) 傍聴者 9名

4 議題

- (1) 真砂地区の小・中学校の統合の順序と時期について
- (2) 真砂地区の小・中学校の統合場所について
- (3) 次回開催日時・場所

5 会議資料

- (1) 参考 花島小学校（統合校）について
- (2) 統合場所を検討するための比較資料その1
- (3) 統合場所を検討するための比較資料その2
- (4) 真砂地区学区図
- (5) 資料1 真砂地区学校適正配置地元代表協議会におけるこれまでの協議経過等と今年度の進め方について（前回の地元代表協議会で使用）
- (6) 資料2 真砂地区の小・中学校に関する資料（前回の地元代表協議会で使用）

6 議事の概要

(1) 真砂地区の小・中学校の統合の順序と時期について

前回の協議の報告があり、協議の後、真砂地区については、小学校・中学校とも平成23年4月に統合することが決定した。

(2) 真砂地区の小中・学校の統合場所について

「統合場所を検討するための比較資料その1・その2」をもとに協議を行い、統合場所については継続審議とし、今回は教育委員会からのたたき台をもとに協議することとした。

(3) 次回開催日時・場所について

平成21年7月29日（水）午後4時から6時、真砂コミュニティセンター講習室2にて開催することとした。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶

真砂地区の学校適正配置の協議会も、今回で10回目を迎えた。

各委員のご理解と協力により、ゴールが見えてきている。ゴールを目指して気持ちよく審議していただきたい。よろしく願います。

(2) 資料の確認

「花島小学校（統合校）について」の資料をもとに、合意形成から統合までのスケジュールについて確認したい。花島小学校では、7月の統合準備会の発足の後、統合校の開校まで準備期間が9カ月ほどしかなかったため、あわただしかったという学校現場の先生方の意見もあった。その反省から、最低でも一年間の交流期間等を含めた準備期間が必要であると考えている。そういった意味から、真砂地区については、最短でも平成23年4月の統合校の開校となる。

(3) 議題

議題1 真砂地区の小・中学校の統合の順序と時期について

<富田議長>

統合の順序と時期については、今回の協議の冒頭で結論を出すことになっていた。前回の協議では、19人の委員のうち18人が早期の統合実現、そのうち14人が小中同時に、4人が先に小学校を統合するという意見であった。委員の皆様は熟慮検討していただいたことと思う。前回と意見が変わったという方はおられるか。

<成田委員>

前は小学校を先に統合した方がよいという意見だったが、他の委員のご意見を聞くと、子どもたちには順応性があり、統合してもあまり心配はないということだった。そのことをふまえると、小学校、中学校を同時に統合するという意見に賛成する。

<富田議長>

15名の方が「小学校、中学校同時に、できるだけ早い時期に統合する」という意見である。これを本協議会としての方向として確認してよいか。

<各委員> 異議なし

<富田議長>

それでは、「最短である平成23年4月に、小・中学校を同時に統合する」という意見がまとまったということをお願いしたい。

議題2 真砂地区の小・中学校の統合場所について

<富田議長>

次に統合の場所について、検討していきたい。こちらも、子どもたちのために第一に考えていただきたい。事務局に資料の説明をお願いする。

<事務局>

※ 統合を検討するための比較資料その1（小学校）とその2（中学校）について説明した。

<土屋敏秋委員>

参考までに、資料の中に、現在の人数を入れてもらおうとよりわかりやすい。

※平成21年5月1日現在の児童・生徒数、学級数は以下のとおりである。

学校名	児童・生徒数（人）	学級数
真砂第一小学校	285	12
真砂第二小学校	325	12
真砂第三小学校	179	6＋特別支援学級1
真砂第四小学校	227	8＋特別支援学級2
真砂第一中学校	231	8
真砂第二中学校	280	9＋特別支援学級3

※太字は少人数加配教員を活用しての開級を含む。

<矢口委員>

校舎同士をつないでいる渡り廊下についての耐震の状況はどうか。

<事務局>

渡り廊下についても I s 値を調べており、問題はない。

<成田委員>

教室等の改修には国からの補助が出ていると思うが、跡施設になると補助金を返還しなければならないのではないかと。

<事務局>

教室の改修だけでなく学校を建設する際には国からの補助を受けているが、学校を統廃合し、国庫補助を受けて建設された校舎等を学校以外に転用する際、民間に有償で売却する場合などを除き、ほとんどの場合国庫納付金を免除される。

<岩井委員>

私は真砂第二小学校と真砂第三小学校については、隅から隅まで知っているという自負がある。しかし、真砂第一小学校と真砂第四小学校についてはあまり知らない、というか、あまり関心がない。したがって、真砂第一小学校と真砂第四小学校の統合校の位置については、えらそうなことは言えないと思う。一緒に議論するのか、分かれて議論するのかを考えた方がよい。もちろん中学校については、一緒に議論すべきだと考えている。

<富田議長>

資料についての質問はあるか。

<久保田委員>

子どもルームについてだが、設置場所が学校敷地内となっていたり敷地外となっていたりするが、敷地の大きさや余裕教室の数等によって変わるのか。

<事務局>

もちろんそのようなこともあるが、真砂第二小学校については、設置の歴史的な背景もあると聞いている。

<土屋明子委員>

真砂第二小学校の子どもルームは、地域でお金を出し合って作った経緯がある。真砂第三小学校の場合、市に掛け合って作ってもらったが、単独で管理するシステムやトイレ等の設置を考えた場合、校舎内に作るより経費が安くあがることもあり、敷地内に設置したようである。

<事務局>

子どもルームについては、教育委員会ではなく子ども家庭福祉課が管轄している。設置する際には、施設として独立できるかどうかが重要である。

<久保田委員>

柔軟に対応できるということか。子どもルームは、できれば学校内にある方がよいだろう。

<富田議長>

どうしても動かさない施設、設備というものはあるのか。また、平成23年の統合に向けて（設計・建設計画等の）おおよその工程表は出せないのか。

<事務局>

どうしても動かさない施設、設備はないと思う。また、平成23年4月に統合といっても、23年4月に新しい校舎ができるということではなく、あくまで統合校としてスタートするということを理解してほしい。花島小の例では、統合校のスタート後、施設の改修に2年間かかっている。校舎改修の設計や建設計画等のスケジュールは、（新設統合校として使う場所により校舎等の状況が異なるので、）統合校の場所が決まらないと示せない。なお、最短で平成23年4月というのは、校舎の改修工事等との関係ではなく、子どもたちの交流活動等、統合を円滑に行うための準備期間と考えていただきたい。

< 富田議長 >

平成23年4月に新しい校舎になることはないのか。

< 事務局 >

校舎を改修するためには、一旦改修する校舎を空けることが望ましい。ただし、改修する校舎の状況等により、改修期間は変わってくるだろう。

< 北澤会長 >

一度みんなで学校を見学してみるのもよいのではないか。

< 矢口委員 >

岩井委員の意見もわかるが、他方のことがわからないならばわからないなりに客観的な見方で意見を言い合えばよいだろう。

< 富田議長 >

それでは協議に移りたい。これまでの統合の必要性については、教育委員会の考え方が重要であったが、統合校の場所については、私たち地域の意見が一番重要である。教育委員会より案を出してもらうという意見もあったが、今日は結論を求めずに十分に話し合い、次回以降に結論を出したい。

< 岩井委員 >

まだ協議の時間があるので先送りせず、今日話し合った方がよいだろう。

< 富田議長 >

進め方として、小学校から協議するか、中学校から協議するか、どちらがよいか。

< 久保田委員 >

この資料だけでは判断できないだろう。それぞれの学区の人口等、もっとデータが必要である。

< 速水委員 >

まず真砂第一小学校と真砂第四小学校について、それぞれのメリットとデメリット、そしてデメリットの解決方法を考えて決めていく。次に、真砂第二小学校と真砂第三小学校についてというように協議してはどうか。

< 富田議長 >

話し合いの方法として、分科会で協議するか、全体で協議するか、どのように協議を進めたらよいか。

< 成田委員 >

真砂地区全体の問題であり、全員で話し合うべきである。

< 土屋明子委員 >

一人ずつ考えや意見を言ってはどうか。

< 久保田委員 >

議論を深めてから決めることが重要だろう。

< 嶋田委員 >

分科会で話し合い、その結果を全体で話し合うのがよいだろう。しかし、何を判断の基準にするのかがわからない。例えば、経済性なのか、通学距離なのか、そういった観点を決めないと、「どちらでもよい」となってしまうだろう。観点を決めて協議した方がよい。

< 岩井委員 >

協議会で決めたことと教育委員会の意見とが異なったらどうするのか。もし協議会の意見が反故にされるのなら、話し合う意味がない。

< 事務局 >

協議会の意見を尊重するということを前提としている。

<北澤会長>

この問題については、教育委員会を信頼して、地元代表協議会で話し合った結果が優先されると考えたい。

<速水委員>

判断の基準として、一つに現在の児童・生徒数、二つに通学距離、三つとして防災等を含めた施設、ということではどうか。

<松本委員>

真砂第一小学校と真砂第四小学校では、場所はどちらでもよいが、街灯の数等、通学路の安全確保が一番の問題であると考えている。

<岩井委員>

どちらが統合校になるだろうが、(どちらかがこれまでとは違う場所に通学することになるので)条件は同じである。通学路の安全確保は、後でじっくりと話し合ってはどうか。

<佐藤靖子委員>

校庭の広さを基準としてはどうか。中学校では、真砂第一中学校の方が校庭は広い。また、真砂第一中学校は中央から外れているかなと思っていたが、地図で見るとそうでもない。

<土屋明子委員>

真砂第一中学校は校庭の水はけがよく、防災施設としての機能も十分である。体育館は真砂第二中学校の方が広いが、真砂第一中学校の体育館も生徒が900人いた時にも対応できていた。個人的には、真砂第一中学校はよい環境だと思う。

<土屋敏秋委員>

現在の生徒の在籍数、そして体育館の広さで真砂第二中学校を推したいと思う。

<阿部委員>

真砂第二中学校の体育館の広さは魅力的である。体育館の建て直しはできるのか。

<事務局>

建て直しは考えていない。あくまで既存施設の改修で考えている。

<森本委員>

校庭については、広さも大切だがトラックやサッカーコートとしてどれ位のものが取れるのかも大切な判断材料だろう。生徒数が増えた場合、野球、サッカー、テニスなどが校庭を使うので、教室数だけでなくそのあたりも検討したい。

<佐藤靖子委員>

体育館や校庭は、跡施設となる所も利用すると考えてみてはどうか。

<土屋敏秋委員>

跡施設の管理をどうするのかも考えなくてはいけないだろう。

<岩井委員>

小学校についてだが、真砂第一小学校と真砂第二小学校は同じような校舎の形状であり、真砂第三小学校と真砂第四小学校は同じように思う。放課後子ども教室等で学校に行く機会があるが、自分のように外部の人間から見ると、真砂第一小学校・真砂第二小学校のような形状の方が管理しやすいと考える。実際に見ることは必要である。見学会を行ってみてはどうか。

<富田議長>

中学校の位置について、各委員の意見をお願いしたい。

<森本委員>

先ほどの考えから、真砂第二中学校がよいと思う。

<成田委員>

観点が千差万別であり判断に迷うが、地域の中心という意味で真砂第二中学校ではないか。

<矢口委員>

判断に迷う。真砂第二中学校を小学校として使うことは可能か。

<事務局>

中学校を小学校に転用した例は千葉市でもある。ただし、今回の場合、中学校の統合・校舎改修の後に小学校への施設改修を行うことになるので、真砂第一小学校・真砂第四小学校の子どもたちの統合小学校への移転が遅くなるだろう。

<阿部委員>

防犯しやすい校舎の形状や周囲の環境からみると、真砂第一中学校がよいと思う。

<松本委員>

判断できない。

<米倉委員>

判断できない。

<佐藤靖子委員>

校庭の広さからいって真砂第一中学校がよいと思う。

<島村委員>

校舎の形状や校庭の広さからみると真砂第一中学校だが、体育館の広さは捨てがたい。引き分けなので点数化にできないか。ポイントをつけた結果で決まったとなれば、保護者も説得しやすい。

<土屋明子委員>

先ほどの通り、真砂第一中学校を推したい。

<嶋田委員>

普通教室棟が新基準である等を考えると真砂第一中学校がよいと思う。

<岩井委員>

真砂第一中学校区の代表として出席しているので真砂第一中学校を推したい。

<土屋敏秋委員>

現在の在籍数から考えて真砂第二中学校を推したい。

<速水委員>

生徒の在籍数、体育館の広さ、現在特別支援学級があることから真砂第二中学校を推したい。

<高橋委員>

どちらでもよいと思うが、通学距離から考えて真砂第二中学校を推したい。その際には、真砂第四小学校の校庭を使うようにしてはどうか。

<久保田委員>

校舎の形状、防犯、防災、環境等の観点から考えると真砂第一中学校を推したい。また真砂第二小学校が隣である。

<出町委員>

一長一短である。学校の配置と跡地の活用を考えると、真砂第一中学校か。真砂第一中学校を残して真砂第二小学校の施設を使えるようにしてはどうか。その際、跡地となる真砂第二中学校は真砂第一小学校と真砂第四小学校との統合校が使うようにしてはどうか。

<富田議長>

自分が居住する場所を推す声が多かった。今日のところは意見をいただき、次回に決めていきたい。場所については地元の問題であり、重要である。決まらない場合は教育委員会の意向も示してもらい、協議することもあり得るだろう。

<米倉委員>

矢口委員の「真砂第一小学校・真砂第四小学校の統合校を真砂第二中学校の場所にする」という考えは、両校の中心となるので、通学距離の問題など保護者も納得しやすいのではないかと。適正配置という点からも、統合は予定どおり同時期に行い、現校舎の利用期間は長くなってしまいが、中学校が移転してから、校舎を小学校として改修してもよいのではないかと。

<成田委員>

統合した時のそれぞれの中学校を使用した場合の施設使用のシミュレーションは作成できるか。

<事務局>

具体的な施設使用のシミュレーションについては難しい。改修にかかる期間は、現状の校舎の状態によっては短くなることはあり得る。それぞれの学校の比較とともに、地域としてのバランスも一つの判断材料となろう。

<岩井委員>

どこに統合するかは、なかなか決まらないだろう。いつまでに決めればよいのか。

<事務局>

期限はないが、9月頃までに決められれば、校舎の改修に係る設計費等を来年度予算に請求することはできる。

<嶋田委員>

9月までに決めるのなら、今日、ある程度決めなければいけないのではないかと。

<土屋明子委員>

それぞれの学校を応援したいという気持ちは同じであり、このような状態では決まらないだろう。教育委員会に委ねてもよいのではないかと。

<富田議長>

場所は地域の問題である。十分協議して決めたい。次回は小学校について話し合い、その次に意見をまとめてはどうか。

<嶋田委員>

9月までにとということであれば、もう時間はない。

<富田議長>

後ほど提案するが、7月中にもう一度協議会を開きたい。さらに8月にも協議して決めていきたい。

<矢口委員>

次回の協議会までに各小・中学校のPTA・保護者の意見を集約し、真砂第一中学校区・真砂第二中学校区で話し合いをもってはどうか。その結果を持ち寄り協議してはどうか。

<事務局>

保護者の方は、ある程度のたたき台がないと話し合いが難しいのではないかと。もし了解が得られれば、今回の協議会の協議を整理し、それをもとに案をいくつか作成し示したいがいかかか。

<富田議長>

保護者や地域の考えや意見は重要である。話し合う機会を持つことは大切だろう。

<岩井委員>

今日と同じような協議をやっても時間の無駄である。協議を整理して、教育委員会でたたき台を作ってもらえるのなら、その方がよい。それをもとにして話し合いたい。

<富田議長>

場所は大きな問題である。今日の協議内容は、保護者や地域の方にぜひ伝えてほしい。もっと議論が必要だろう。次回決めることは難しいと思われるので、あと2回ほど協議して結論を出していきたい。

<北澤会長>

これだという決め手がないと、なかなか決まらないだろう。教育委員会から案を提示してもらい、それをもとに話し合うというのがよいのではないかと。

<岩井委員>

私は、次回に結論を出せとは言っていない。協議のためのたたき台を出してもらえるのなら、その方がよいということである。皆さんに確認をお願いしたい。

<富田議長>

岩井委員の提案についていかがか。

<各委員>

了承

<富田議長>

それでは岩井委員の提案にあるように、教育委員会から案を提示してもらい、次回協議することとしたい。なお、保護者の代表におかれては、今回の協議の状況等を保護者にお知らせし、意見をいただいて次回の協議に臨んでいただきたい。

<阿部委員>

次回が7月中となると、時間にも余裕がない。全保護者に集まってもらうことは難しいが、執行部同士で方法を考えてみたい。

(4) 連絡

<事務局>

○前回も確認したが、議事要旨については昨年度と同様、議事要旨（案）を作成し、委員の皆様に確認をいただいた上で完成版とし、教育委員会のホームページ上に公開したい。

○本協議会の欠席について 事前に電話連絡をお願いしたい。また、代理出席も可能なので、その点も含めてご連絡願いたい。

(5) 閉会

長時間にわたる協議、ご苦労さまでした。それぞれの地域にある学校がかわいいという気持ちはよくわかるが、大局的な見方で協議するために資料をよく読んでいただき、理解を深めてほしい。